

# 就労支援につなげる生活介護～T シャツを創って工賃にチャレンジ！

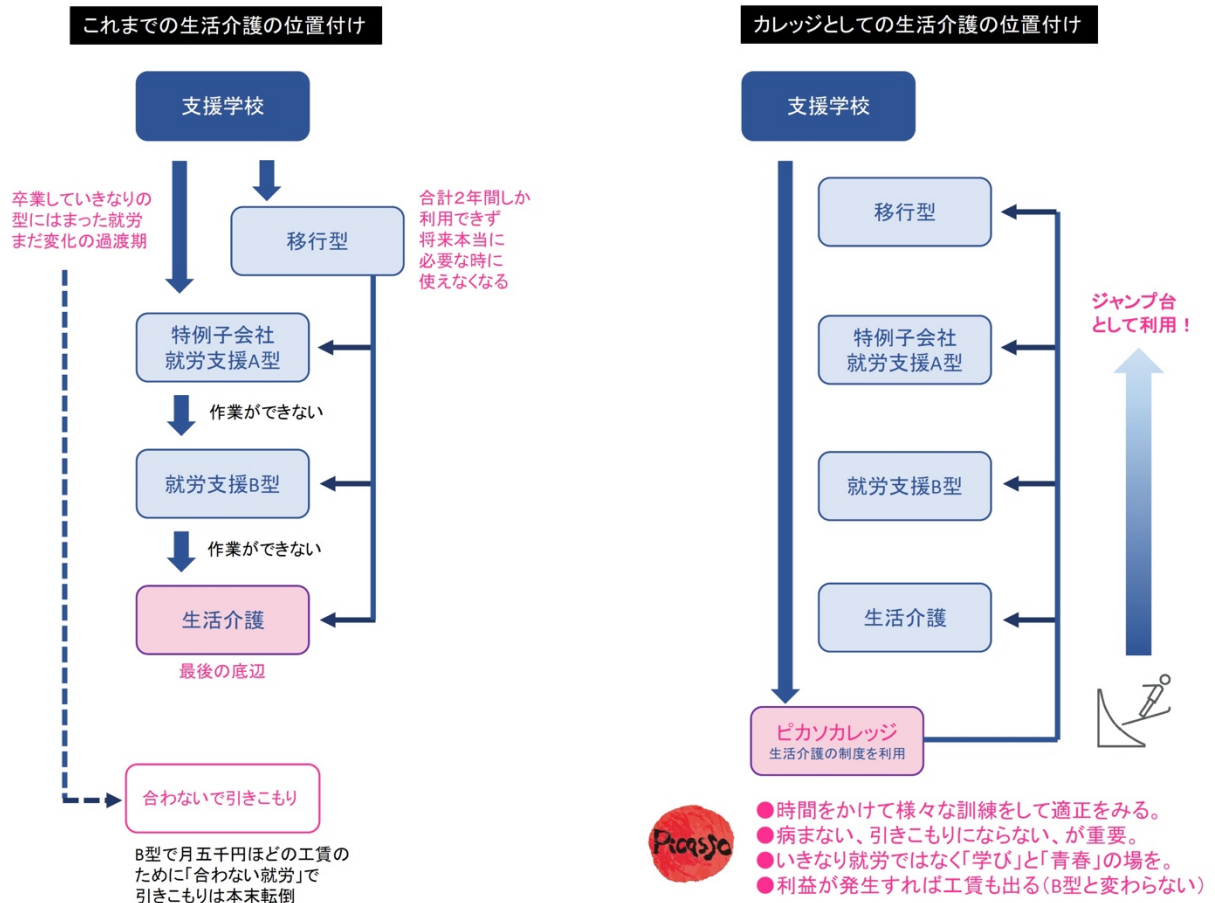
神奈川県川崎市  
株式会社アイム  
ピカソ・カレッジ新百合北  
代表 佐藤典雅

## 1 はじめに

ピカソ・カレッジでは、これまでになかった方法で新しいタイプの就労支援を実現しています。従来の「生活介護」では就労支援に入れない重度なレベルの利用者を想定していました。しかしピカソでは「就労支援を目指す専門学校」という位置付けで生活介護を活用しています。現在支援学校の多数の卒業生は既存の「就労支援 B 型」にマッチしないため、「就労移行支援」に流れるケースが増えています。しかし移行型には二年間という制約があり、結局問題の先送りになってしまいます。アイムでは川崎市からの助成金を利用し、新しい形の生活介護にチャレンジしました。

## 2 事例や取組みの紹介

ピカソでは川崎市からの助成金を活用して従来の就労支援問題の解決に着手しました。生活介護の位置付けをこれまでのイメージである「就労支援にいけない利用者」から、新しく「就労支援へ向けた専門学校」と定義しなおしました。下記がその比較です。



ピカソには移行型にある「二年間」という縛りがないため、就労支援に向けて利用者の適性を見るのに時間をかけることができます。そして重要なのが、川崎市からの助成金で導入したTシャツのプリンターを使って、工賃の出る仕組みをつくったことです。生活介護では通常工賃を支払いませんが、ピカソでは利益の出る商品をつくれたことで、就労支援B型と同じほどの工賃（月1万円程 / 1人）を払うことが可能になりました。

ピカソではそれぞれの作業工程に点数をつけて、各人が作業を行なった分だけ点数を個人別に表につけていきます。シャツをプリントした枚数、畳んで袋に入れた枚数によって合計点数がきまり、それが工賃の額に反映されます。自分の努力が数字にハッキリと現れるので、利用者も意欲をもって作業にとりくんでいます。

また他の福祉施設のためにオリジナルTシャツを作って納品することができるため、地域のニーズを満たすことが可能になりました。別の視点で見ると地域からのサポート（取引）があってこそピカソの売上は成り立っています。



### 3 考察

利用者には様々なタイプ・レベルの知的障がいがあります。個人の性格や特性によって、それぞれ違った弊害や制約があります。そのため従来の就労支援のように一つの単調な作業を長時間行うことが難しい利用者も多数います。また従来の就労支援が合わず引きこもりとなってしまったケースも多くみられます。

ピカソでは「引きこもりにならない就労支援」をテーマに、様々なタイプの利用者が安定して継続できる就労支援づくりを試みています。中でも最も重要なのは「お金・報酬」です。労働による対価は、利用者にとって通う目標を明快にしてくれます。そして自分の頑張った分だけ工賃がもらえるというのは、本人の自信とやりがいにも直結してきます。

ピカソには相談支援を通じて、就労支援や生活介護をドロップアウトしてきた利用者がたくさんやってきました。そこでピカソでは時間をかけて各人のペースに合わせて活動内容を決めています。「作業を決めてそこに利用者を合わせる」のではなく、「利用者に合わせて作業をつくる」をコンセプトにしています。その結果、長年外に出ることができなかつた利用者たちが社会復帰をできるようになりました。「地域の支援から利用者を切り離さない」という視点も大切です。

### 4 おわりに

川崎市からの助成金があったからこそ実現できたTシャツづくり。地域の福祉施設からオリジナルTシャツの発注がくるからこそ工賃が払えるようになりました。ピカソ・カレッジはまさに地域によって創られ、地域によって支えられている就労支援だといえます。そして利用者を地域から孤立させないための生活介護。ピカソ一緒に育ててくださった皆様に感謝を申し上げます。